

問題制作例
課題発表ガイドに記載している
・出題用途に適した計画となる『〇敷地周辺環境に配慮』
・出題用途を『計画する理由や目的(抱える課題も)』
上記二点をテーマとして文章を作成する。

出題用途&設計図試験条件(7月課題発表掲載内容)
・出題用途【Step3~条件設定】
〇敷地の周辺環境に配慮して計画する。
〇バリアフリー、省エネルギー、
二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して
〇各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
〇建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、
経済性に配慮して計画する。

本計画で最も重要なこと
・建築することになった経緯をイメージする
・『特に』部分を囲いmustと強調する

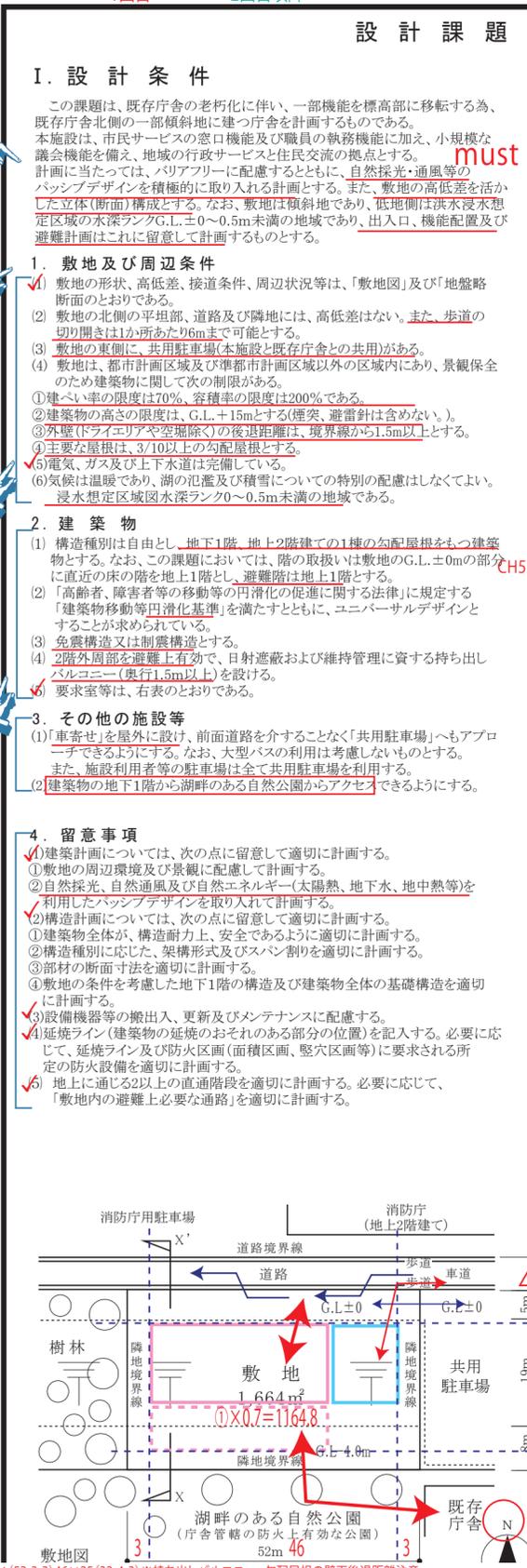
(1)敷地形状および接道、周辺条件等は敷地図の通り
(2)敷地の高低差有無と歩道の切り開き条件
(3)用途地域、建蔽率の限度、容積率の限度
(4)当課題のみ条件とする内容がある場合
(5)電気、ガス及び上下水道は完備
(6)地盤状況について
(7)気候、積雪に対する配慮無し、その他設定条件

敷地及び周辺条件の定番(毎年出題される内容)
と、その対策を覚えるとともに、
定番の逆パターン等で出題された場合も
想定して、逆パターン等で対応すべき点も
覚えておく。

(1) 構造種別、大空間の屋根や車寄せの庇などを計画する場合
→一部別構造や構造は自由
地上〇階建て又は階数自由、耐火建築物はmustにする
(2) 用途に合わせたバリアフリー法適合must
ユニバーサルデザイン等Best
その他、建築物に指定される条件があれば追記する。

敷地及び周辺条件の定番(毎年出題される内容)
と、その対策を覚えるとともに、定番の逆パターン等で
出題された場合も想定して、逆パターン等で
対応すべき点も覚えておく。

①-2 敷地情報整理
1:方位の確認(Nを〇で囲う)
2:道路幅員チェック(最小幅員を△で囲う)
3:各施設又は各方位から敷地への歩行者動線を最短距離で→で描く
※駅等の多数の歩行者が想定される→は3本分位の大きさを描く。
4:3の集中している箇所から、敷地長辺及び短辺それぞれ2/3の範囲を
利用者アプローチからコアの計画範囲【利用者コアゾーン】と想定
して描く。
※いくつかのパターンがある→それぞれのパターンを別々に図示する
5:4の集中する歩行者動線→から離れた位置で道路に面する場所へ
車の動線→(管理・メンテ等)を設ける。車の動線→付近を□管理
コアゾーンとして描く。
※利用者Pと管理用Pを集中配置又は分散配置の2パターン検討、
利用者コアゾーン⇔H P管理者コアゾーン⇔S Pからセンターコア
又は偏コア型のいずれかで都合の良い配置を進めていく。



設計課題 「庁舎」
要求室等(下表の室等は、全て計画する。)
Table with columns: 室名等, 特記事項, 床面積. Includes rooms like エントランスホール, ロビー, 総会窓口, 本会議場, 傍聴受付, 傍聴席, 議会事務局, 委員会室, 正副議長室, 控室, 応接室, 議会図書室, 電算室, 印刷室, 放送室, 食堂, 議会ギャラリー, 多目的室, 消防ポンプ室, 設備.

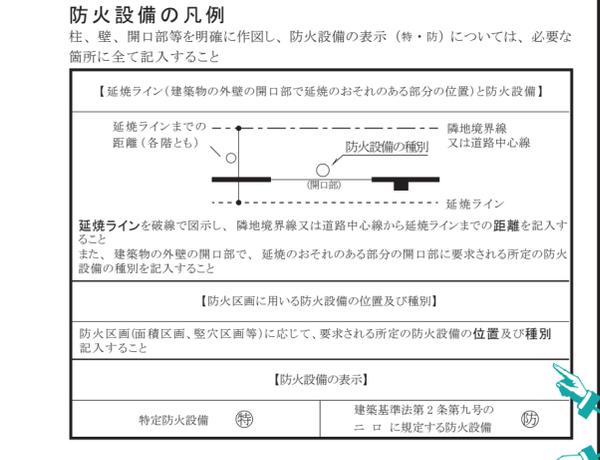
II. 要求図書
答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい)に、黒鉛筆を用いて記入する。
1. 要求図面(答案用紙Iに記入)
「I. 設計条件」の要求等を満足したことを明示したうえで、下表に示す事項を図示又は記入して、図面を作成する。(フリーハンドでもよい)
ほかにも計画上で工夫、配慮した事項について、図面上に仕器等を記入して表現し、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

Table with columns: 図面及び縮尺, 特記事項. Includes requirements for floor plans (1F, B1F), section drawings, and area tables.

2. 面積表(答案用紙Iに記入)
(1) 建築面積及びその算定式を記入する。
(2) 床面積の合計及び各階の床面積の算定式を記入する。
3. 計画の要点等(答案用紙IIに記入)
要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(4)を具体的に記述又は図示する。

秘
本資料の著作権は
一級建築士事務所プラスデザイン株式会社に帰属しています。
当社受講生に対して受講を目的とする限りで
許されているものであり、
これをインターネット開示や第三者に対して
譲渡・貸与等を行うことは、有償無償問わず禁止しています。
資料の一部又は全部を無断で使用、転載等を行う事を
禁止しております。

防火設備の凡例
柱、壁、開口部等を明確に作図し、防火設備の表示(特・防)については、必要な箇所に全て記入すること
【延焼ライン(建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置)と防火設備】
延焼ラインまでの距離(各階とも)
防火設備の種別
【防火設備の表示】
特定防火設備(特)
建築基準法第2条第9号のニロに規定する防火設備(防)

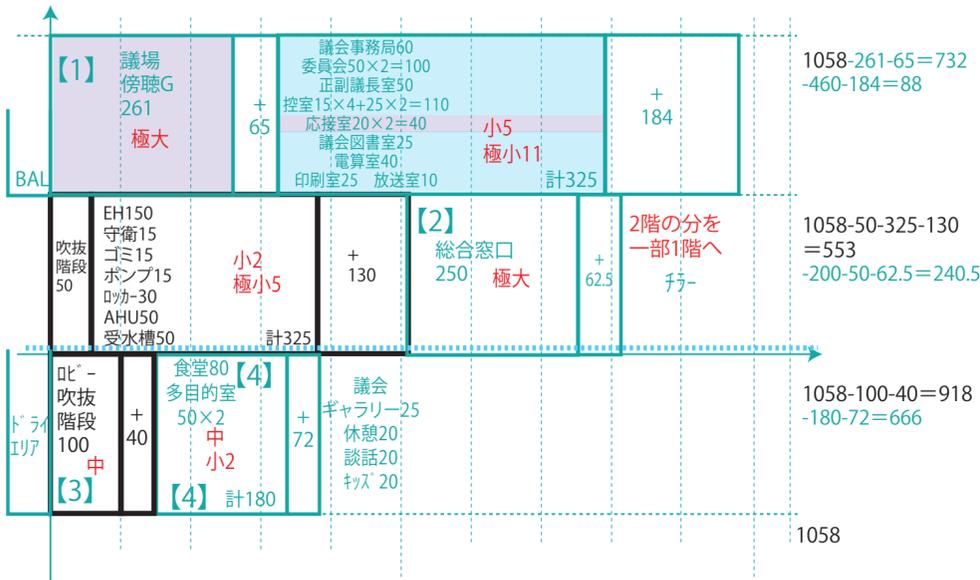


【建築物の計画に当たっての留意事項】※課題発表(令和7年7月25日)内容を転記※
〇敷地の周辺環境に配慮して計画する。
〇バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
〇各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
※大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。
〇建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
〇構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
〇空調設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

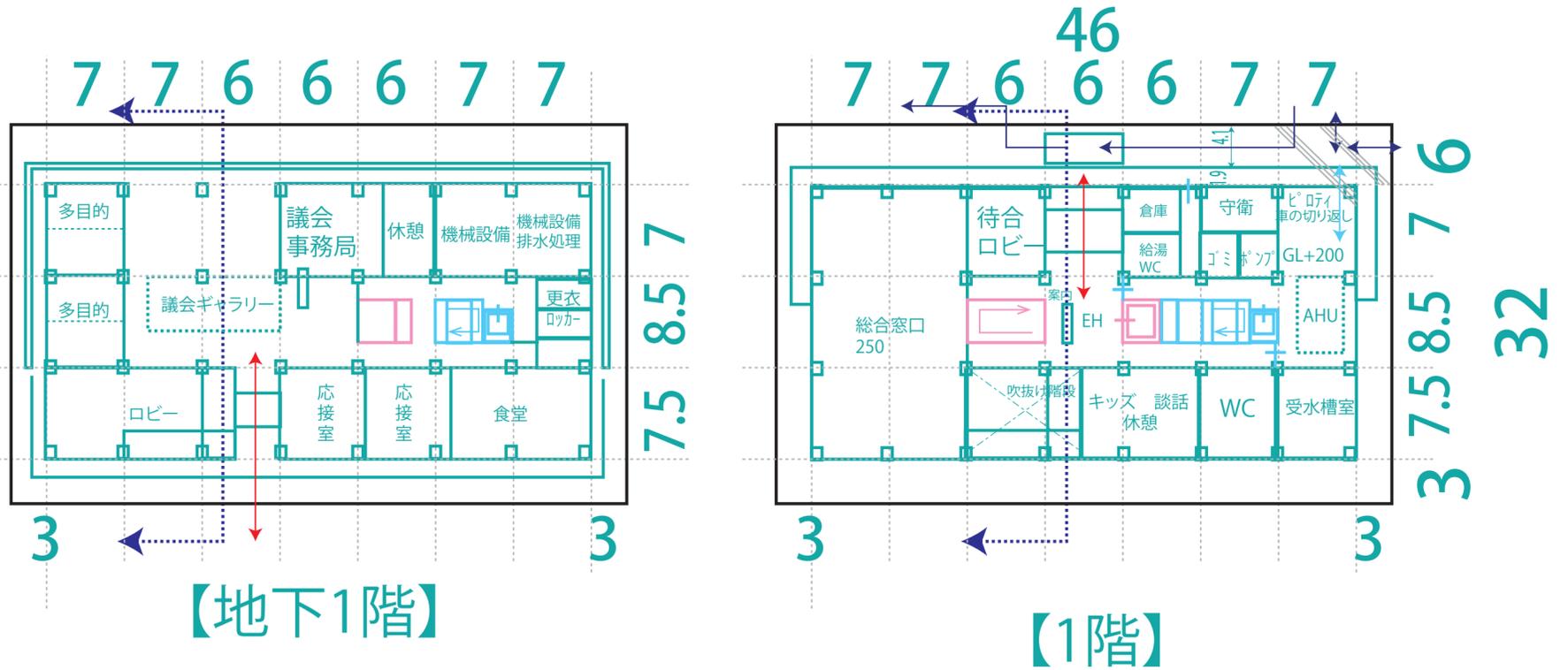
問題用紙1回目の読み取りでは、
1.設計条件
1.敷地及び周辺条件
2.建築物
から、周辺及び敷地環境に於いて、
計画で求められていることを確認
→敷地図及び(3)要求室に情報整理する。
1:問題用紙は小声で音読する。
2:線引きマーカーは必要箇所のみにする
3:計画の要点で分かる範囲は、効果のある
計画手法をキーワード抽出しておく
Point:
文章を読み、拡大解釈せずに理解する
図や文章に記載されている理由を推測する
Point:
敷地及び周辺条件は、例年の条件と異なる点を重点的に検討する。
Point:
(3)要求室の1回目読み取り時に、
2-3エスキス工程までに不要な情報を
線引きしたり、電卓を使用しない。
Point:
3.その他の施設等の施設名、設置数は
(3)要求室の関連する室付近に
強調してメモ書きする。
Point:
II 要求図書、2面積表は例年の条件
と異なる点や断面図の切断方向等
問題ごとに変わる点を線引き
問題用紙に書いている内容は、
常に「一字一句全て」確認すること
定番でも『確認要』
ピロティ面積の算出について等
一回目の読み取りを
速く読むタイムトライアルと勘違いせず
しっかりと理解するように確認していけば
間違わない。
問題用紙の読み取り1回目は
じっくりと一回
又はリピートして二回確認する
『15分間』は1回目読み取りに使う

## Step2 ③ 各階各要求室等の配置検討

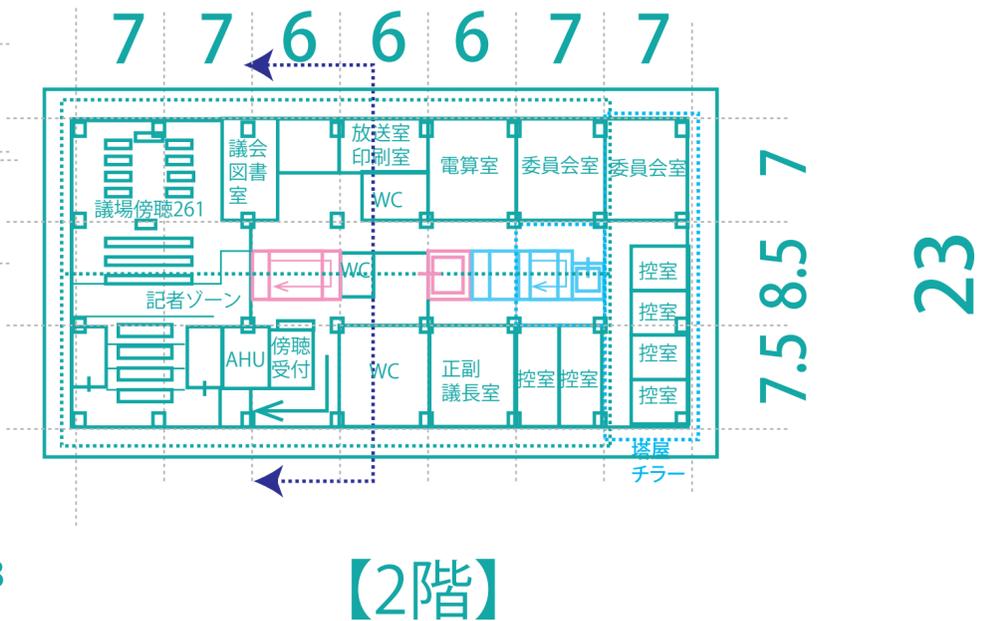
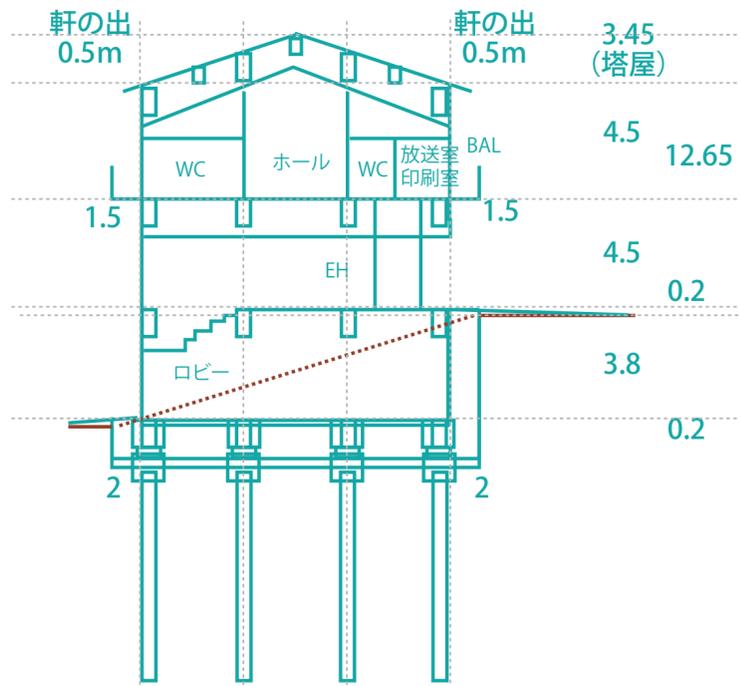
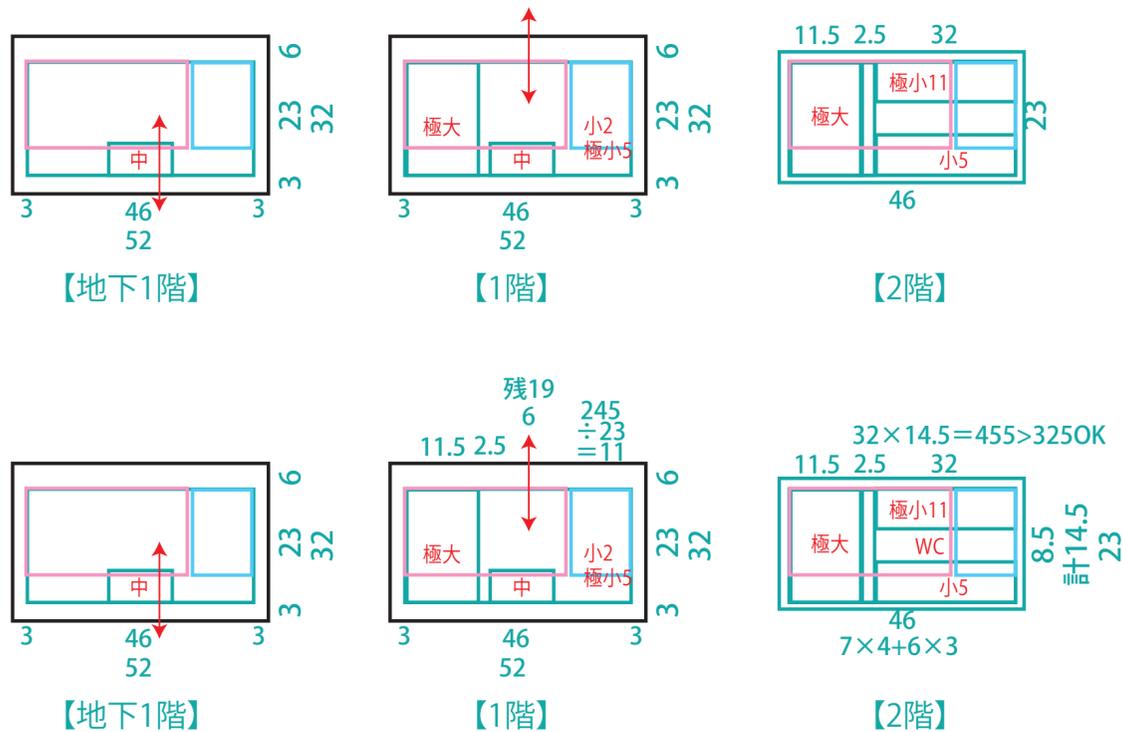
1664×200%=3328 要求室合計=1657×2→3314  
 1058×3=3174→ギリギリの面積で厳しい※2階層は階高を上げる方向で進める。



## Step4 1/400プランニング



## Step3 1/1000ゾーニング



建築面積: (46+0.5+0.5) × (23+0.5+0.5) = 1128  
 地下1階床面積: 46 × 23 - 3.5 × 2 = 1051  
 1階床面積: 46 × 23 - 6 × 2 - 2 × 1 - 6 × 5 (吹抜け部のみ) = 1014  
 2階: 46 × 23 = 1058 (計3123)